

氏名	那 須 龍 介
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3 1 6 3 号
学位授与の日付	平成 9 年 1 2 月 3 1 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第 4 条第 2 項該当)
学位論文題目	Immunohistochemical analysis of intercellular adhesion molecule-1 expression in human gastric adenoma and adenocarcinoma (ヒト胃腺腫及び胃癌における intercellular adhesion molecule-1 発現の免疫組織化学的検討)
論文審査委員	教授 赤木 忠厚 教授 原田 実根 教授 原田 英雄

### 学位論文内容の要旨

ヒト胃腺腫及び胃癌における細胞接着因子intercellular adhesion molecule-1(ICAM-1)の発現を免疫組織化学的に検討した。ICAM-1は胃癌28例中12例、胃腺腫11例中3例において一部の腫瘍細胞に発現がみられたが、正常胃粘膜にはほとんど発現がみられなかった。ICAM-1の発現は胃腺腫とintestinal-type胃癌の腫瘍腺管管腔側にみられ、diffuse-type胃癌にはほとんど発現せず、intestinal-type胃癌では、diffuse-type胃癌と比較し有意にICAM-1の発現頻度が高かった( $P < 0.005$ )。電顕ではICAM-1は腫瘍細胞のapical membraneに主な発現がみられ、その他蛋白合成器官であるperinuclear membraneやendoplasmic reticulum、及びlateral surfaceにも弱い発現がみられた。以上のことから、ICAM-1は胃癌細胞で合成されているもののその発現は少なく、宿主の免疫応答には不十分と思われた。

また、ICAM-1の発現とHLA抗原発現及び浸潤リンパ球サブセットとの間には有意な関連性がみられず、胃癌細胞におけるICAM-1の発現はサイトカインによる誘導よりも、むしろ癌化に伴う胃上皮細胞自身の変化によってもたらされた可能性が示唆された。

### 論文審査結果の要旨

本研究はヒト胃腺腫及び胃癌における細胞接着分子ICAM-1の発現を免疫組織化学的に検討したものである。従来知られていなかったICAM-1の腸型胃癌における発現と、ICAM-1の超微形態学的な局在を明らかにし、さらにHLA抗原発現や浸潤リンパ球サブセットとの関連性についても調べたものであり、価値ある業績であると認める。

よって本研究者は、博士(医学)の学位を得る資格があると認める。